

科目名	建設業経理士対策(財務諸表)											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		新田 寛			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	3月の建設業経理士1級合格を目標とする。上級の建設業簿記、建設業原価計算及び会計学を習得し、会社法その他会計に関する法規を理解しており、建設業の財務諸表の作成及びそれに基づく経営分析が行える。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標						
	○					建設業簿記の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、説明ができる。						
		○				建設業経理士1級の内容を把握し、過去問題(財務諸表)が解答できる。						
テキスト・教材 参考図書	ネットスクール出版 過去問題集&テキスト 1級建設業経理士 財務諸表出題パターンと解き方											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-2	企業会計/分類と目的、企業会計原則・損益会計/発生主義会計					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3-4	資産会計/現金、金銭債権、有価証券					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5-6	資産会計/棚卸資産、固定資産、繰延資産					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	7-8	負債会計/引当金、社債、純資産会計					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	9-10	退職給付会計、税効果会計、企業結合、連結会計					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	11-12	リース会計、キャッシュ・フロー計算書					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	13-15	過去問題演習/財務諸表					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験			◎								60%
	確認テスト			◎								20%
	宿題・レポート			◎				◎				20%
履修上の注意												

科目名	建設業経理士対策(原価計算)											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		新田 寛			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	3月の建設業経理士1級合格を目標とする。上級の建設業簿記、建設業原価計算及び会計学を習得し、会社法その他会計に関する法規を理解しており、建設業の財務諸表の作成及びそれに基づく経営分析が行える。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					建設業簿記の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、説明ができる。						
		○				建設業経理士1級の内容を把握し、過去問題(原価計算)が解答できる。						
テキスト・教材 参考図書	ネットスクール出版 過去問題集&テキスト 1級建設業経理士原価計算出題パターンと解き方											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-2	建設業原価計算、費目別計算					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3-4	工事間接費の配賦、部門別計算					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5-6	機材等使用率の決定、工事別原価の計算、工事契約会計における原価計算					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	7-8	総合原価計算、事前原価計算と予算管理					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	9-10	標準原価計算					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	11-12	原価管理の展開、経営意思決定の特殊原価分析					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	13-15	過去問題演習/原価計算					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
定期試験				◎								60%
確認テスト				◎								20%
宿題・レポート				◎				◎				20%
履修上の注意												

科目名	建設業経理士対策(財務分析)										
科目名(英)											
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		新田 寛		
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	経理科2年										
授業概要	3月の建設業経理士1級合格を目標とする。上級の建設業簿記、建設業原価計算及び会計学を習得し、会社法その他会計に関する法規を理解しており、建設業の財務諸表の作成及びそれに基づく経営分析が行える。										
	iCDタスクコード										
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					建設業簿記の専門用語について学び、意味を説明することができる。					
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、説明ができる。					
		○				建設業経理士1級の内容を把握し、過去問題(財務分析)が解答できる。					
テキスト・教材 参考図書	ネットスクール出版 過去問題集&テキスト 1級建設業経理士財務分析出題パターンと解き方										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1-3	財務分析の基礎					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4-6	収益性分析					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7-9	安全性分析					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	10-12	活動性分析					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13-15	生産性分析					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	16-18	成長性分析					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	19-21	財務分析の基本的手法					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	22-24	総合評価の手法					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	25-27	確認テスト/総合問題					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	28-30	過去問題演習/財務分析					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
	定期試験			◎						60%	
	確認テスト			◎						20%	
	宿題・レポート			◎				◎		20%	
履修上の注意											

科目名	簿記論Ⅰ											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		40時間		担当者		新田 寛			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	簿記は企業などの事業活動を帳簿に記録して、その記録内容から経営状態を明らかにすることを目的としており、この経営状態を明らかにするために財務諸表を作成する。財務諸表を誰が見ても同様に解釈できるようにするためには、財務諸表を作る際のルールを決めておく必要があり、そのルールが「簿記」である。つまり、簿記論では財務諸表を作るためのルールと実際の計算を習得する。											
	iCDタスクコード		SP02.5.1 SP02.5.2 SP02.5.3 SP02.5.4 SP02.5.5									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みを理解し仕訳が出来る						
		○				簿記の計算構造を理解し帳票作成が出来る						
テキスト・教材 参考図書	税理士試験問題集簿記論・財務諸表論Ⅰ 基礎導入編・Ⅱ 基礎完成編・Ⅲ応用編											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-2	簿記一巡					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	3-4	現金預金					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	5-6	金銭債権					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	7-8	棚卸資産					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	9-10	有形固定資産					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	11-12	無形固定資産					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	13-14	営業費					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	15-16	金融商品					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	17-18	法人税等・租税公課					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと					
	19-20	税効果会計					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期テスト	◎		◎								60%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
	出席状況・授業態度							◎				20%
履修上の注意												

科目名	簿記論Ⅱ										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		40時間		担当者		新田 寛		
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	経理科2年										
授業概要	簿記は企業などの事業活動を帳簿に記録して、その記録内容から経営状態を明らかにすることを目的としており、この経営状態を明らかにするために財務諸表を作成する。財務諸表を誰が見ても同様に解釈できるようにするためには、財務諸表を作る際のルールを決めておく必要があり、そのルールが「簿記」である。つまり、簿記論では財務諸表を作るためのルールと実際の計算を習得する。										
	iCDタスクコード		SP02.5.1 SP02.5.2 SP02.5.3 SP02.5.4 SP02.5.5								
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みを理解し仕訳が出来る					
		○				簿記の計算構造を理解し帳票作成が出来る					
テキスト・教材 参考図書	税理士試験問題集簿記論・財務諸表論Ⅰ 基礎導入編・Ⅱ 基礎完成編・Ⅲ応用編										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1-2	消費税等の会計処理					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	3-4	リース取引					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	5-6	減損会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	7-8	退職給付会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	9-10	引当金					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	11-12	純資産会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	13-14	繰延資産 外貨建換算会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	15-16	特殊商品売買					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	17-18	資産除去債務					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと				
	19-20	収益認識					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
	定期テスト	◎		◎						60%	
	宿題・レポート	○		◎				◎		20%	
	出席状況・授業態度							◎		20%	
履修上の注意											

科目名	簿記論Ⅲ										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		40時間		担当者		新田 覚		
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	経理科2年										
授業概要	簿記は企業などの事業活動を帳簿に記録して、その記録内容から経営状態を明らかにすることを目的としており、この経営状態を明らかにするために財務諸表を作成する。財務諸表を誰が見ても同様に解釈できるようにするためには、財務諸表を作る際のルールを決めておく必要があり、そのルールが「簿記」である。つまり、簿記論では財務諸表を作るためのルールと実際の計算を習得する。										
	iCDタスクコード		SP02.5.1 SP02.5.2 SP02.5.3 SP02.5.4 SP02.5.5								
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みを理解し仕訳が出来る					
		○				簿記の計算構造を理解し帳票作成が出来る					
テキスト・教材 参考図書	税理士試験問題集簿記論・財務諸表論Ⅰ 基礎導入編・Ⅱ 基礎完成編・Ⅲ応用編										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1-2	本支店会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	3-4	商的工業簿記					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	5-6	本社工場会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	7-8	建設業会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	9-10	過年度遡及会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	11-12	組織再編					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	13-14	連結会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	15-16	キャッシュ・フロー計算書					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	17-18	デリバティブ					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと				
	19-20	帳簿組織 伝票会計					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
	定期テスト	◎		◎						60%	
	宿題・レポート	○		◎				◎		20%	
	出席状況・授業態度							◎		20%	
履修上の注意											

科目名	財務諸表論Ⅰ											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		40時間		担当者		梶山 豊			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	財務諸表論では、税理士科目の簿記論と同様に税理士試験必須科目として学習する科目となります。簿記論では財務諸表の作成を中心とした学習に対して、財務諸表論では、株主や債権者など企業の利害関係者へ、財政状態及び経営成績を報告するための財務諸表(貸借対照表・損益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等計算書など)の理解とその作成方法を問われる科目です。財務諸表論の授業では、税理士試験必須科目の財務諸表論の合格を目指します。											
	iCDタスクコード		SP02.5.1 SP02.5.2 SP02.5.3 SP02.5.4 SP02.5.5									
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					財務諸表論の全体構造を理解できる。						
		○				会計公準・会計原則・概念フレームワークを理解できる。						
テキスト・教材 参考図書	税理士試験問題集簿記論・財務諸表論Ⅰ 基礎導入編・Ⅱ 基礎完成編・Ⅲ応用編 財務諸表論・理論編											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-2	基礎編					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	3-4	財務諸表論の基礎知識					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	5-6	財務諸表論の全体構造					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	7-8	貸借対照表					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	9-10	損益計算書					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	11-12	会社法開示制度					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	13-14	注記事項等					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	15-16	四半期財務諸表					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	17-18	貸借対照表の概要					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと					
	19-20	金銭債権の評価					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期テスト	◎		◎								60%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
	出席状況・授業態度							◎				20%
履修上の注意												

科目名	財務諸表論Ⅱ											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		40時間		担当者		梶山 豊			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	財務諸表論では、税理士科目の簿記論と同様に税理士試験必須科目として学習する科目となります。簿記論では財務諸表の作成を中心とした学習に対して、財務諸表論では、株主や債権者など企業の利害関係者へ、財政状態及び経営成績を報告するための財務諸表(貸借対照表・損益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等計算書など)の理解とその作成方法を問われる科目です。財務諸表論の授業では、税理士試験必須科目の財務諸表論の合格を目指します。											
	iCDタスクコード		SP02.5.1 SP02.5.2 SP02.5.3 SP02.5.4 SP02.5.5									
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					財務諸表論の全体構造を理解できる。						
		○				会計公準・会計原則・概念フレームワークを理解できる。						
テキスト・教材 参考図書	税理士試験問題集簿記論・財務諸表論Ⅰ 基礎導入編・Ⅱ 基礎完成編・Ⅲ応用編 財務諸表論・理論編											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-2	棚卸資産					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	3-4	金融商品					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	5-6	デリバティブ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	7-8	有形固定資産					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	9-10	リース会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	11-12	無形固定資産					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	13-14	減損会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	15-16	繰延資産					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	17-18	負債会計					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと					
	19-20	退職給付会計					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期テスト	◎		◎								60%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
	出席状況・授業態度							◎				20%
履修上の注意												

科目名	財務諸表論Ⅲ											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		40時間		担当者		梶山 豊			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	財務諸表論では、税理士科目の簿記論と同様に税理士試験必須科目として学習する科目となります。簿記論では財務諸表の作成を中心とした学習に対して、財務諸表論では、株主や債権者など企業の利害関係者へ、財政状態及び経営成績を報告するための財務諸表(貸借対照表・損益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等計算書など)の理解とその作成方法を問われる科目です。財務諸表論の授業では、税理士試験必須科目の財務諸表論の合格を目指します。											
	iCDタスクコード		SP02.5.1 SP02.5.2 SP02.5.3 SP02.5.4 SP02.5.5									
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					財務諸表論の全体構造を理解できる。						
		○				会計公準・会計原則・概念フレームワークを理解できる。						
テキスト・教材 参考図書	税理士試験問題集簿記論・財務諸表論Ⅰ 基礎導入編・Ⅱ 基礎完成編・Ⅲ応用編 財務諸表論・理論編											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-2	純資産会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	3-4	税効果会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	5-6	損益計算書の概要					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	7-8	商品売買と収益の認識基準					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	9-10	外貨建換算会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	11-12	建設業会計					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	13-14	連結財務諸表					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	15-16	連結財務諸表					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	17-18	組織再編					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと					
	19-20	キャッシュ・フロー計算書					授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期テスト	◎		◎								60%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
	出席状況・授業態度							◎				20%
履修上の注意												

科目名		日商簿記検定対策						
科目名(英)								
単位数	6単位		時間数	100時間		担当者	小林 憲一	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	経理科2年							
授業概要	過去問題演習を行い、日商簿記能力検定1級合格を目指す。							
	iCDタスクコード		SP02.5.1 SP02.5.2 SP02.5.3 SP02.5.4 SP02.5.5					
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					会計専門用語について学び、意味を説明することができる。		
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、説明ができる。		
		○				日商簿記1級の全般の内容を理解し、過去問題が解答できる。		
テキスト・教材 参考図書	日商簿記ズバリ！1級の中完全予想模試							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1-5	日商簿記検定1級 過去問題演習				前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	6-10	日商簿記検定1級 過去問題演習				前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	11-15	日商簿記検定1級 過去問題演習				前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	16-20	日商簿記検定1級 過去問題演習				前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	20-25	日商簿記検定1級 過去問題演習				前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	26-30	日商簿記検定1級 過去問題演習				前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	31-35	日商簿記検定1級 過去問題演習				前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	36-40	日商簿記検定1級 過去問題演習				前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	41-45	日商簿記検定1級 過去問題演習				前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	46-50	日商簿記検定1級 過去問題演習				前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期テスト	◎	◎				60%	
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%	
	出席状況・授業態度				◎		20%	
履修上の注意								

科目名	全経簿記検定対策											
科目名(英)												
単位数	3単位		時間数		50時間		担当者		小林 憲一			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	過去問題演習を行い、全経簿記能力検定上級合格を目指す。											
	iCDタスクコード		SP02.5.1 SP02.5.2 SP02.5.3 SP02.5.4 SP02.5.5									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					会計専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、説明ができる。						
		○				全経簿記上級の全般の内容を理解し、過去問題が解答できる。						
テキスト・教材 参考図書	全経簿記上級 過去問題集 出題傾向と対策											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-5	全経簿記能力検定上級 過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	6-10	全経簿記能力検定上級 過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	11-15	全経簿記能力検定上級 過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	16-20	全経簿記能力検定上級 過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	20-25	全経簿記能力検定上級 過去問題演習					前回の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期テスト	◎		◎								60%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
	出席状況・授業態度							◎				20%
履修上の注意												

科目名	消費税法 I											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		小林 憲一			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	消費税法の仕組みを学び、税理士科目消費税法の合格を目指す。消費税が課税される仕組みを理解し、各種取引を課税の対象、非課税、輸出免税など課税される取引、課税されない(免除される)取引に区分、申告書の作成ができるようになる。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					消費税法の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、説明ができる。						
テキスト・教材 参考図書	2022年度版税理士(消費税法)基礎＋応用＋理論セット ネットスクール出版											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-4	消費税の概要 課税の対象(国内) 非課税(国内) 免税					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	5-8	課税標準及び税率(国内) 売上返還等					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	9-12	貸倒れ 課税の対象 非課税					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	13-16	課税標準及び税率(輸入) 納税義務					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	17-18	控除対象仕入税額					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	19-22	仕入返還等 引取還付 引取申告 確定申告 還付申告					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	23-26	非課税資産の輸出等 棚卸資産の調整					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	27-30	著しい変動 転用					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
定期テスト		◎		◎								60%
宿題・レポート		○		◎				◎				20%
出席状況・授業態度								◎				20%
履修上の注意												

科目名	消費税法Ⅱ											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		小林 憲一			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	消費税法の仕組みを学び、税理士科目消費税法の合格を目指す。消費税が課税される仕組みを理解し、各種取引を課税の対象、非課税、輸出免税など課税される取引、課税されない(免除される)取引に区分、申告書の作成ができるようになる。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					消費税法の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、説明ができる。						
テキスト・教材 参考図書	2022年度版税理士(消費税法)基礎＋応用＋理論セット ネットスクール出版											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-4	中間申告 税抜経理					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	5-8	個人事業者					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	9-12	簡易課税制度					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	13-16	納税義務 リバースチャージ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	17-18	課税の対象 定義					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	19-22	非課税 免税					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	23-26	課税標準及び税率					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	27-30	納税義務(①原則②免除③課税事業者の選択)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期テスト	◎		◎								60%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
	出席状況・授業態度							◎				20%
履修上の注意												

科目名	消費税法Ⅲ											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		小林 憲一			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	消費税法の仕組みを学び、税理士科目消費税法の合格を目指す。消費税が課税される仕組みを理解し、各種取引を課税の対象、非課税、輸出免税など課税される取引、課税されない(免除される)取引に区分、申告書の作成ができるようになる。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○					消費税法の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、説明ができる。						
テキスト・教材 参考図書	2022年度版税理士(消費税法)基礎＋応用＋理論セット ネットスクール出版											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-4	納税義務(前年等の課税売上高による特例)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	5-8	売上返還等 特定課税仕入返還等 貸倒れ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	9-12	仕入税額控除(原則)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	13-16	仕入返還等					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	17-18	非課税資産の輸出等 著しい変動/転用					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	19-22	個人事業者/棚卸資産の調整					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	23-26	納税義務の免除の特例(①相続②合併③会社分割) 課税期間					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
	27-30	資産の譲渡等の時期(①原則②リース譲渡③工事の請負④現金基準)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期テスト	◎		◎								60%
	宿題・レポート	○		◎				◎				20%
	出席状況・授業態度							◎				20%
履修上の注意												

科目名	ビジネスアプリケーションⅡ									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		下仮屋 珠美	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	経理科2年									
授業概要	これまで学んだOfficeソフト(Word・Excel)を使って、実践的なスキルを身につける。操作スキルだけではなく、ビジネス文書の書き方やデータの活用術といったビジネススキルも習得する。									
	iCDタスクコード									
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○				Wordでビジネス文書作成、宛名印刷、差し込み印刷ができる				
		○				Excelでデータ集計、分析、関数の活用ができる				
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 スキルアップ問題集 ビジネス実践編(FOM出版)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	課題演習:ビジネス文書(通知・連絡)、チラシ、レポート作成								
	2	課題演習:ビジネス文書(通知・連絡)、チラシ、レポート作成					作成した課題を見直しておくこと			
	3	課題演習:ビジネス文書(通知・連絡)、チラシ、レポート作成					作成した課題を見直しておくこと			
	4	課題演習:ビジネス文書(案内・告知)、チラシ、レポート作成					作成した課題を見直しておくこと			
	5	課題演習:ビジネス文書(案内・告知)、チラシ、レポート作成					作成した課題を見直しておくこと			
	6	課題演習:ビジネス文書(案内・告知)、チラシ、レポート作成					作成した課題を見直しておくこと			
	7	課題演習:データ分析、集計、グラフ作成、関数の演習					作成した課題を見直しておくこと			
	8	課題演習:データ分析、集計、グラフ作成、関数の演習					作成した課題を見直しておくこと			
	9	課題演習:データ分析、集計、グラフ作成、関数の演習					作成した課題を見直しておくこと			
	10	課題演習:データ分析、集計、グラフ作成、関数の演習					作成した課題を見直しておくこと			
	11	課題演習:データ分析、集計、グラフ作成、関数の演習					作成した課題を見直しておくこと			
	12	課題演習:データ分析、集計、グラフ作成、関数の演習					作成した課題を見直しておくこと			
	13	課題演習:データ分析、集計、グラフ作成、関数の演習					作成した課題を見直しておくこと			
	14	まとめ(Word、Excel)					作成した課題を見直しておくこと			
	15	まとめ(Word、Excel)					作成した課題を見直しておくこと			
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	授業内評価テスト		◎				60%			
	課題作成		○				40%			
履修上の注意										

科目名		コンピュータ会計演習Ⅱ						
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	小林 憲一	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年		経理科2年						
授業概要		与えられた証憑をもとに、弥生会計に入力し、貸借対照表、損益計算書が作成できるようになる。 コンピュータ会計の基本的な仕組みを理解し、全経コンピュータ会計能力検定3級取得を目指す。						
		iCDタスクコード						
授業形式	講義：△		演習：○		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					証憑から仕訳を作成できる		
		○	○			仕訳をコンピュータ(弥生会計)に入力できる		
	○					入力データをもとに貸借対照表や損益計算書を作成できる		
テキスト・教材 参考図書		コンピュータ会計能力検定試験2級 最新過去問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	コンピュータ会計システムの理解/各入力データの活用				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	2	証憑を読み取り仕訳をする				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	3	証憑を読み取り仕訳を会計ソフトに入力する				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	4	入力済仕訳・会計データを活用する				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	5	実績資金繰り表の作成				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	6	コンピュータ会計2級 過去問題演習・解説				過去問題を実施するので復習しておくこと		
	7	コンピュータ会計2級 過去問題演習・解説				過去問題を実施するので復習しておくこと		
	8	コンピュータ会計2級 過去問題演習・解説				過去問題を実施するので復習しておくこと		
	9	コンピュータ会計2級 過去問題演習・解説				過去問題を実施するので復習しておくこと		
	10	コンピュータ会計2級 過去問題演習・解説				過去問題を実施するので復習しておくこと		
	11	コンピュータ会計2級 過去問題演習・解説				過去問題を実施するので復習しておくこと		
	12	コンピュータ会計2級 過去問題演習・解説				過去問題を実施するので復習しておくこと		
	13	コンピュータ会計2級 過去問題演習・解説				過去問題を実施するので復習しておくこと		
	14	コンピュータ会計2級 過去問題演習・解説				過去問題を実施するので復習しておくこと		
	15	コンピュータ会計2級 過去問題演習・解説				過去問題を実施するので復習しておくこと		
評価方法	(1)評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成し提出を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	評価テスト	◎	◎	◎			60%	
	確認テスト	○	○	○			20%	
	出席状況・授業態度				○		20%	
履修上の注意	ワークブックと電卓を必ず持参すること							

科目名	データ分析基礎											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		下仮屋 珠美			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	経理科2年											
授業概要	ピボットテーブルやグラフを利用したデータ傾向の把握、分析ツールを利用した仮説検定など、Excelを使ったデータ分析の手法を学ぶ。											
	iCDタスクコード											
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
		○				ピボットテーブルを活用し、集計表を作成できる						
		○				仮説を立て検証し結論を出すことができる						
テキスト・教材 参考図書	よくわかるExcelではじめるデータ分析 (FOM出版)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	データ分析の必要性、データの種類										
	2	事例の確認、作業の流れ確認					テキストの該当箇所を復習すること					
	3	代表値とは、平均を使ったデータ傾向の把握					テキストの該当箇所を復習すること					
	4	中央値、標準偏差を使ったデータ傾向の把握					テキストの該当箇所を復習すること					
	5	データの視覚化、ピボットテーブル					テキストの該当箇所を復習すること					
	6	グラフによる視覚化、ヒートマップを使って視覚化					テキストの該当箇所を復習すること					
	7	トレンド、パターンの視覚化					テキストの該当箇所を復習すること					
	8	仮説とは何か、仮説検定					テキストの該当箇所を復習すること					
	9	t検定、F検定を使った比較					テキストの該当箇所を復習すること					
	10	パレート図を使った把握、t検定の検討					テキストの該当箇所を復習すること					
	11	変数の関係性、結果の分析					テキストの該当箇所を復習すること					
	12	相関係数、相関の計算					テキストの該当箇所を復習すること					
	13	近似曲線を使った予測、分析ツールを使った回帰分析					テキストの該当箇所を復習すること					
	14	ゴールシークを使った試算、ソルバーを使った検討					テキストの該当箇所を復習すること					
	15	まとめ					テキストの該当箇所を復習すること					
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)受講態度を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	授業内評価テスト				◎						80%	
	受講態度				○		○				20%	
履修上の注意	再試験は実施しない。											

科目名	キャリアデザインB									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		藤本 清貴	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	経理科2年									
授業概要	・面接試験における自身の強みの整理を行い、質問に端的に答えられるように準備する。 ・目標の企業に狙いを定め、受験手続きを決められた順序で行う事が出来るようになる。 ・志望企業に内定する為、ターゲットを絞った面接対策を行い、効果的な受け答えが出来るようになる。									
	iCDタスクコード									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				業界研究・職種研究を行い、業界志望理由・職種志望理由を言語化できる。				
	○	○				受験企業に合わせた志望動機を考え、作れるようになる。				
	○	○	○			面接の場における適切な受け答えを学び、模擬面接の中で出来るようになる。				
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック(麻生塾)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	自己分析とキャリアプランニング①					※随時、面接練習も並行して実施します。 面接練習の準備を行いましょう。			
	2	自己分析とキャリアプランニング②								
	3	仕事研究①自分の適性に合致した志望企業を考える								
	4	仕事研究②1年後・5年後・10年後の仕事を考える					レポート提出			
	5	志望企業に合わせた志望動機と、自己PRの作成								
	6	求人票の読み方・求める企業を探す方法					レポート提出			
	7	競合他社・志望企業の弱み強みを考える								
	8	説明会や会社訪問でのビジネスマナー①								
	9	説明会や会社訪問でのビジネスマナー②								
	10	グループディスカッション・グループワークとは								
	11	グループディスカッション及びワークのコツ								
	12	小論文・作文対策								
	13	お礼状・書類送付の正しい方法を知る								
	14	面接対策：強みをまとめてロジカルに話そう								
	15	面接対策：想定される質問を自分なりに準備する								
評価方法	(1)課題(レポートや強みのまとめ等の作成など)を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	課題・レポート提出		○	◎				40%		
	面接練習		○	◎	◎	◎		40%		
	授業態度、出席状況					◎		20%		
履修上の注意	出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。									